

2020年3月19日

島根大学長 服部 泰直 様

島根大学職員組合
中央執行委員長 栢野 彰秀



公開質問状
教育経費の削減について

ここ数年、教員に配分される教育基盤経費は激減しています。このままでは教育の質を保証できないと警鐘を鳴らす教員が増えています。職員組合はこの問題について団体交渉を申し入れ、島根大学と2度にわたり交渉を行いました。しかし大学側は「ご理解いただきたい」を繰り返すのみで、改善のために努力する姿勢を全く示しませんでした。表記の交渉議題について、現時点で何の合意もできていません。

文科省から高い評価を受け、山陰唯一の総合大学として生き残っていくためには、教育研究以上のことをせねばならないという事情は理解します。そのために地域貢献のプロジェクトにも資金と資源を割かねばならないことも理解します。

しかし国立大学の存在理由はあくまでも教育と研究です。国立大学は「教育研究に対する国民の要請にこたえ」、「高等教育及び学術研究の水準を向上」を図るためにあります(国立大学法人法第1条)。この基本を覆してプロジェクトを大学の中心事業にすることはできません。また、学長は「人格が高潔で、学識が優れ、かつ、大学における教育研究活動を適切かつ効果的に運営することができる能力を有する者」(同法第12条)とされています。大学では何をおいても教育が最優先であり、学長はその効果的な運営に責任をもたねばならないのです。島根大学は今、正しい方向を目指して運営が行われていると言えるでしょうか。

本組合は、教育経費の減少に関して、大学教育の最高責任者である学長の見解を求めます。以下の事項に4月6日までに学長自身が誠実に文書で回答されることを要求します。なお、本質問および学長による回答は、本組合のホームページ等で学外者にも公開することを予定しています。

1. 現状認識について

以下の事実を認識しているかお答えください。

- ① 交渉において、大学は名目的な「教育基盤経費」(以下「教育基盤経費_{名目}」。)を減らしてはいないと述べたが、実質的な“教育基盤経費”(以下“教育基盤経費_{実質}”)は5年間で激減している。
- ② 「研究基盤経費_{名目}」「教育基盤経費_{名目}」の6~8割が「学部共通経費」として一般管理費(すなわち光熱水費等)に流用されている。
- ③ 申請による「教育経費」が今年度激減したことで、多くの学部で実習の実施が難しくなっている。(船を借りるお金がない、バスを借り上げるお金がない、かといって私費では大学のバスを借りられない等)
- ④ 参加する学生の「手出し」や、教員の「カンパ」を増やして実習を行うケースも出ている。
- ⑤ TA 予算が今年度から一律半減された。
- ⑥ 成績優秀者の授業料免除が、「全額免除」から「半額免除」に、さらには「免除なし」になった。

2. 学生への説明責任について

上記③～⑥の事柄について、学生が説明を求めたり苦情を述べたりすることがあり、現場の教員は心苦しい思いをしています。そのような学生の質問や苦情に、学長はどのようにお答えになりますか。

3. “教育基盤経費_{実質}”の下限について

教員1人1人に配分される“教育基盤経費_{実質}”は、ゼロ円でもよいと思われませんか。よくないと思われる場合、最低どのくらいの額が必要であるとお考えでしょうか。

4. プロジェクトと教育の関係について

交渉で組合は教育経費の最低ラインの保証を求めましたが、大学はそれに対し「運営費交付金の0.9%は評価を受けてヒモ付で返ってくる」「それはプロジェクトに回すしかない」という回答をしました。つまり、“教育経費_{実質}”が無制限に減っている現状を「ご理解いただきたい」と述べるさい、「プロジェクト」に言及したのです。

4.1 優先順位は？：これは、「まずプロジェクトの予算を確保し、余ったお金を教育に回している」ことを意味するのでしょうか。そうでないとすれば、プロジェクトと“教育基盤経費_{実質}”の減少はどう関係するとお考えでしょうか。

4.2 バランスは？：島根大学の規模にふさわしいプロジェクト予算はどのくらいだとお考えでしょうか。

※2018年度の交付金は約370億。人件費・診療経費・一般管理費_{名目}・受託研究費を除くと約48億円で、この額を教育・研究・プロジェクトで分けることになると思われま

5. “教育予算_{実質}”の減少への対応について

基盤経費やプロジェクト経費などの“教育予算_{実質}”が減少することを「やむなし」と認識するにしても、教育の質を下げたよい理由にはなりません。予算が減るなかでこれまでの教育を維持するために大学としてどのような工夫を行っておいでですか。あるいは、それに向けてどのような行動をされていますか。

※大学のプロジェクトにほとんど関わりをもたない学生が多にいるという事実を踏まえてご回答ください。

6. 次期中期計画について

現在の予算の立て方に問題があることは、交渉の場で大学側も認めました。そして、次期中期計画では見直すことになるかと述べました。予算と決算の「見える化」をどのように進めるおつもりですか。また、教育の質を保証するための予算確保についてはどのようにお考えでしょうか。